

子どもの貧困対策の目標

～すべての子どもが大人になって社会で生活できる、社会に貢献できる～

現状・課題

☆平成29年度、総合教育会議及び「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会の中で、「**市の支援策は充実しているものの、経済的に困っている家庭がそれらの施策を知っていて活用されているかが疑問である**」との意見があった。

☆各家庭の経済状況やそれに伴い困っている「子どもの貧困問題」については学校、保育園は直接的な家庭への踏み込みが難しく、支援機関につながらない場合が多い。(虐待等が絡むと問題が顕著になり、支援機関に繋がりがやすい)

施策の展開

☆子どもたちが生まれ育った環境によってその将来が左右されることなく、すべての子どもたちが未来に夢や希望を持てるよう支援体制を構築する。

長岡市では、多様な要因で困難を抱える家庭と施策をつなげるための専門員を配置することが早急に必要であると考え、平成30年度から子どもナビゲーターを配置。

…子どもナビゲーターの今後の展開(案)…

《第1段階》

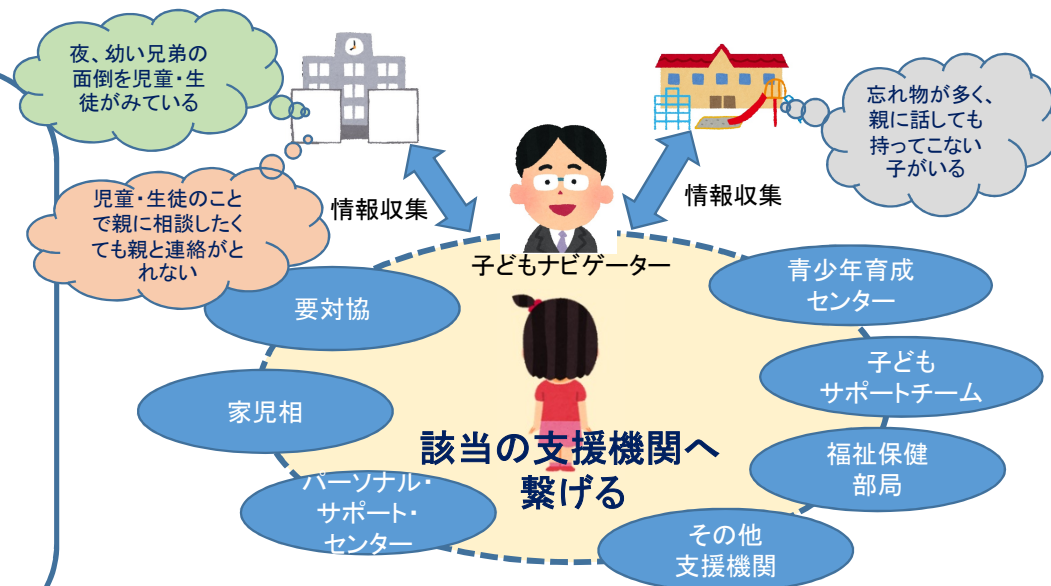
学校や保育園・幼稚園などから、「子どもの貧困」の視点での支援が必要な子ども(家庭)の情報を収集する。経済面だけでなく、親からの愛情や文化的経験の欠如が及ぼす影響による問題を見つけ出す。

《第2段階》

関係機関と情報を共有し、連携を強化することで、支援が必要な家庭を速やかに該当の支援機関につなげる。

《第3段階》

子どもナビゲーターの認知度をあげ、学校等が子どもの対応に困ったときの相談先として定着させる。



継続した関係部署・関係機関連携による支援体制を構築